

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事務所独自の理念を作り、玄関、ユニット事務室のボードに掲載し職員全員が入居者一人ひとりの人格を尊重した介護が出来る様に取り組んでいる。	○	事務所の理念に基づき心と心の触れ合いを大切にし職員同士の勉強会を計画する
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記に同じ	○	上記に同じ
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の方々との会話の中で説明、又掲示する事で伝わっている。	○	運営鍵を2ヶ月に1度定期的を開催してグループホームへの訪問を遠慮する事無く出来る状態を作っている。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	犬の散歩、町一斉清掃に毎回参加して近隣の方々に積極的に挨拶する事で近隣の方々との会話も増えている。	○	施設の外では会話も出来る様になったので次のステップとして施設への訪問が出来る様にして行く。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の行事、町内の祭り、文化祭、体育祭などに見学参加今年度から町商工会に加入している。昨年からは町保育所のひな祭りクリスマス会等の見学参加のご招待を受けてお伺いしている。入居者から好評である。	○	続けて参加し小学校だけでなく中学校にも協力をお願いしていく。学校のPTAの皆様とも交流を深めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小、中、学校の生徒による職場体験や地域住民の施設見学を受け入れてホームの事業内容、認知症を理解していただく。	○	小、中、学校の生徒による職場体験や地域住民の施設見学を受け入れてホームの事業内容、認知症を理解していただくだけでなく介護職に関わる者として積み重ねた知識を発表する機会を利用して講演会、勉強会を施設外で企画する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果を下に改善すべき部分については職員間で話し合い改善している。	○	外部評価の必要性と意義を職員全員が理解し評価結果を生かせるように改善すべきところは検討サービスの向上に努める。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、会議の開催、利用者御家族、地域ボランティア、福祉職員、医療機関職員、老健管理者の参加をいただきサービス向上に生かしている。	○	状態継続
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域在住の認知症老人の情報交換、文化祭、体育祭、研修会の参加に声掛けを実施している。	○	状態継続
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加その内容、学んだ事を職員間で共有している。	○	研修参加者から発表の機会を設けて職員全体に情報の伝達をして行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、排泄介助時などに身体観察をする事で異常の早期発見に努めている。	○	抑制は今後も行なわない

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時、必要説明事項を口答並びに文章により施設管理者、介護支援専門員から説明利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解納得を図っている</p>	○	<p>契約時の重要説明事項の内容を一部内容の変更が必要の為再度作成予定</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常時両者の意見、苦情等を受入れ内容によっては御家族に相談、利用者が又キーパーソンに説明し納得いくように話し合っている。</p>	○	<p>運営に関する苦情は受けたことが無いので引き続き努力して行く</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のお便りで現在状況をお知らせしている。また急激な変化が生じた場合お電話連絡をして報告、説明をしている。</p>	○	<p>継続</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族化の苦情、不満については其の内容により関係者と話し合いを持ち理解解決に取り組んでいる。</p>	○	<p>継続</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見は其の都度聴取して必要時はその場で解決、待てる事についてはカンファレンスで検討結果を職員全員に周知させるべく申し送りを徹底させている。</p>	○	<p>継続</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員同士で相談し合い交代を届け出る突然時は施設長に相談、必要な人員確保し利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>利用者に不安を与える様なローテーションは行なわず各ユニットの介護力を平均にして行きたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は人事にかんしては施設管理者に一任している。管理者は施設内で各ユニットの介護力の均衡をとるため適宜職員のユニット移動を行なっている。</p>	○	<p>経過を見ながら無理の無いローテーションを考える。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の実務経験を満たし参加可能な研修を受けられるようにしている。又可能な限り出張扱いとしている。</p>	<p>○</p> <p>職員の定着をみて研修内容を確認目的として職員同士の勉強会を計画する。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>千葉県グループホーム連絡会入会している。会議は2ヵ月に1度あり必ず参加している。山武エリアネットの会員であり山武地区、千葉県において認知症介護の、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>○</p> <p>今後、他施設への見学を取り組んでいく。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月に1回の施設カンファレンス終了後職員の持ち時間を考慮しながら子供達を交えての食事会、カラオケ、等を行なっている</p>	<p>○</p> <p>今後も、この姿勢を崩さずに実施していく。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務を考慮しながら研修参加を勧めている。職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>○</p> <p>今後も、この姿勢を崩さずに、職員の向上心を支援する。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>職員全体が左記について努力をしている</p>	<p>○</p> <p>御本人御家族が納得した上での入所に取り組んでいく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に施設見学、入所前健康診断を行い入所の不安を解消する為の意見交換を行なっている。お泊り体験も可能になっている。</p>	<p>○</p> <p>施設での対応困難時は関係機関又、御家族との面談を頻回にして行く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記に同じ	○	
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでの生活状況をご家族から情報収集し施設内での個人担当者を決めている。施設生活に馴染んでいただく為に徐々に介護計画を実践していく。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の手伝い可能なことについては職員と一緒に(食事の準備、洗濯物ほし、取り込み収納)している。	○	信頼関係が築けるように、会話の機会を設けて行きたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望、外出希望は職員がドライブをしたり散歩等職員が対応しているが不穏が強く職員対応が困難時は御家族に応援を求めたり緊急連絡喪により在宅職員に応援を求めている。	○	継続して行く。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に1度のイベントを行いその時の写真と手紙を家族に出している又イベントへの参加を声掛けをしている。	○	継続して行く。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報保護法に基づいて個人の保護範囲内において家族、利用者個人の承諾を得た方のみ面会可能にしている。	○	地域密着型サービスになり、散歩・買い物の時ご近所の方に会い困惑されることもある。地域住民にも、認知症の理解をしていただく為に勉強会を計画する。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事はリビングで行い利用者間の交流を図っている。テレビ番組も相談して決めている。新聞を1部リビングに置いているので番組の確認は容易に出来ている。	○	利用者同士が助け合えるように支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に転居された時は環境に慣れるまで面会に出向いたりして不安の解消を手助けしている。	○	転居初期のみしえんを必要としているが徐々に先の環境に慣れていき長い間の関係は持つ事の無いようにしている
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握についてはご利用本人とご家族の意向は平行線であることが多く其の調整に努力している。	○	御家族には、面会時に都度確認できるよう努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護サマリーを参照にこれまでの暮らしぶりを把握しサービス担当者会議を開き介護計画内容を検討している。	○	継続して行く。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人のペースに合わせた生活を心がけ心身状態有する力を考慮し日々の生活を援助していく。	○	状態変化に応じて、職員で話し合う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各勤務帯において申し送りを行なっている、問題点についてはケアマネに相談し解決を図っている。必要に応じてカンファレンスを開いている。	○	継続して行く。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記に同じ	○	継続して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活状況を利用者個人の介護記録に残している。各勤務帯で申し送りを行なうことで情報伝達をしている。	○	記録の勉強会への参加する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携機関と契約をして常に受診可能の状態を保っているののでけんこうを害した時や事故発生時は柔軟な支援をしている	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民である為ホーム利用を親戚に内緒にしていることがある、御家族利用者の希望される事で利用できるものについて支援している。	○	会話等のボランティアを検討したい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは使用していない。	○	必要時に検討できるように、他事業者ケアマネとの連携を取っておく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	町高齢者福祉担当と連絡を密にしており必要な情報は早いうちに頂いている。	○	継続して行く。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携機関と契約をして常に受診可能の状態を保っているののでけんこうを害した時や事故発生時は柔軟な支援をしている	○	継続して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が直ぐ近くにあり神経内科の範囲ないでの治療は可能だが専門医でない為近隣の精神科受診する様にしている状態が落ち着き次第協力機関に返していただきを見ている事が多い	○	継続して行く。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	必要な予防接種は利用者と言語家族の承諾を頂き入居者全員が受けて頂いている 又、お誕生月には健康診断をしている。	○	継続して行く。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	1日1度は面会に行き入院経過の把握に努め主治医の許可をいただきグループホームでお食事をしたりして体調の回復をとりもとしてできるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている	○	継続して行く。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について入所時に確認終末期を迎えたとき主治医のインフォームドコンセントが終了した時点でホームでの看取りを希望された時に看取り介護の契約を成立させる。	○	御家族のメンタル面の支援も重視していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取り介護の時はグループホームで出来る範囲内での介護提供となる事を説明し同意を頂く。	○	都度説明に努める。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅で使用していた道具や使い慣れた小間物の持ち込みを許可している。	○	継続して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー確保、記録等の個人情報の取り扱いをする為には入所時の個人の生活状態を情報収集してリストにあがって居ない方の訪問、電話には対応せず利用者の安全を確保している。	○ 継続して行く。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○ 選択肢を設けて話しする。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活パターンに合わせて食事時間、就寝時間を調整している。又、摂取形態も利用者個人に合ったものを提供している。	○ 継続して行く。
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者個人の希望先に送迎可能としているが現在では2ヶ月に1度訪問において散髪をしている。	○ 継続して行く。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け等その時の体調を考慮しながら職員と共に食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒にいる事もある。	○ 近隣の畑・山からの採取に出向かうようにして行きたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	旬の食材、地元産物を季節を通して日常のメニューに取り入れている。人参、大根 ナス、ピーマン、お味噌など頂く物は多い。	○ どうしても！という時には外出し買い物する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個人の排泄パターンを観察失禁する前に排尿誘導している	○	自尊心を傷つけない声掛け、排泄機能の維持につとめる。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3日に1度の入浴ペースだが失禁による汚染がある時や利用者の希望にあわせて入浴を楽しめるように支援している。	○	継続していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は強制していない。不眠傾向の方には主治医から眠剤服用指示をいただき内服していただく。	○	室内の温度調節、電気毛布の調節等を行う。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙、おはじき、塗り絵、お裁縫等を行うことで気分転換を図りお歌を歌う事も多い。	○	職員が時間を作り、散歩や庭弄りの機会を増やして行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物希望の時はお小遣いから払い出していただき必ず職員が同行する様にしている。	○	継続して行く。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	同上	○	業務に追われず、時間を作りに設けて行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、外食、お買い物等ご希望時は職員が日の出専用号でお出掛けしている。	○	継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話、公衆電話、は常時使用可能になっているのでご自分で連絡可能な利用者さんは自由に連絡を取り合っている。	○	継続して行く。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも訪問可能になっている。来所時面会簿への記載はかならず	○	面会者へお茶出し会話もある。
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り、見回りの強化	○	今後の利用者の状態では、夜勤者だけで対応困難が予想される。現在、当直者を設け試している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口の鍵は開放し出入りは自由に出来る様にしている。	○	継続していく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して利用者の所在や様子を把握する為に施設内ラウンドを定期的実施している個人の状態にあわせて	○	状態に応じて、観察事項の申し送りの徹底。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状態にあわせて危険な物、不必要な物はご家族に持ち帰りをお願いしている。	○	
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員全員が救急救命士の研修を受けている。突然の事故のときの対応を熟知しているはずが、いざの時の対応が職員全体に周知されていないことが多い。	○	定期的の研修の参加。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	同上	○	
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施火災報知機業者と消防隊も同時に参加指導を頂いている利用者も全員参加で消防隊の評価は概ね良好である。	○	
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりえるリスクについては入所時より家族、利用者に説明しているじきてきなことについては家族に連絡し対応策を話し合いその結果を職員に申し送り周知する。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定をして体調の変化を把握異変時は直ぐ医療機関に受診し異常の早期発見を心がけている。	○	継続して行く。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんと効能、副作用など確認しながら内服支援をしている	○	薬剤師との情報交換を密にする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	常習の便秘には下剤服用、牛乳や冷水を飲んでいただくように支援している。不定期の便秘については状態応じて受診または下剤服用としている。	○	継続して行く。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のみがきうがいを励行、週1度の訪問歯科医の診察を受けている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量記載 毎月の体重測定でおおよその観察をしている。食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○	
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	肺炎球菌予防接種 インフルエンザ予防接種を利用者全員実施	○	一行為手洗いの徹底。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日業者が搬入残り物の食材は処分している。	○	毎晩、消毒実施。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場入り口施設入り口に季節の花を植え誰でもが楽しめるようにしたり出入りも自由に出きるようになっている。	○	継続して行く。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は自由にしよう可能 新聞も平成20年10月から利用者専用新聞も配達して貰っている。	○	日光浴、季節の花の観賞等。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビは自由に観賞出来る様にチャンネルコールは常にリビングに置いている。ソファも設置しており、気のあった利用者同士関わりを続ける事ができている	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具其の他の小物入れ等の持込を許可し居心地の良い環境を整えている。	○	
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の清掃時間帯に窓の開放、換気している。居室リビングの暖房は快適な温度に職員が調節している。	○	継続して行く。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造はバリアフリーで足元の安全を保持している。歩行訓練筋力維持訓練は医療連携機関でリハビリを強化している。	○	
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	安全を優先した場合利用者個人個人の力を活かしての自立支援は難しい。	○	危険因子の早期発見・除去の意識を鍛錬する。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇の手入れ草取り等ボランティアの応援を頂き楽しみながら活動している。	○	活動できる機会をもっと設けたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)